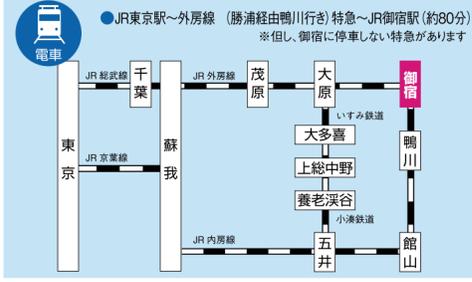
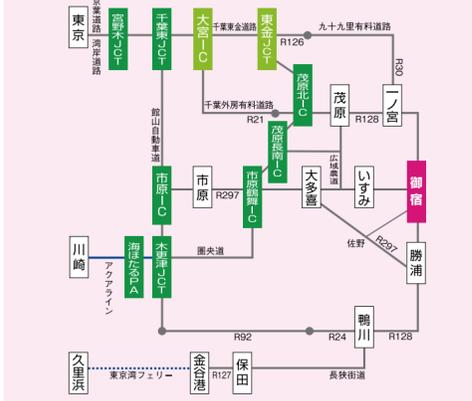


- 市原鶴舞IC出口から約40分
- 茂原長南IC出口から約40分
- 東金九十九里有料道路出口から約40分
- 千葉外房有料道路出口から約50分
- 金谷港より約90分



《お問合せ》御宿町歴史民俗資料館
 〒299-5102 千葉県東隅郡御宿町久保2200
TEL. 0470-68-4311
 ○開館時間 午前9時～午後4時
 ○休館日 月曜日、火曜日、国民の祝日、年末年始
 国民の祝日が火曜日に当たる場合は、翌水曜日も休館となります。
 ○入館料 無料

① 日・西・墨三国交通発祥記念碑



慶長14年9月末当時スペイン領であったフィリピン諸島総督ドン・ロドリゴは任期を終え、ガレオン船サンフランシスコ号にてスペイン領であったメキシコへ帰国途中、嵐に遭い御宿町岩和の田尻沖で座礁した。このとき、岩和の人々が救助に向かい、乗組員373名のうち317名を救出した。岩和で療養した一行は、大多喜城主本多忠朝と徳川家康、秀忠の助けにより、神奈川県浦賀からメキシコへと無事に帰国できた。

この出来事が、日本、スペイン、メキシコとの友好のきっかけとなった。記念碑の建設は大正13年に始まり、戦中には白い姿が目立つため、黒く塗られたこともあった。記念碑建立50周年となる昭和53年には、メキシコのホセ・ロペス・ポルティエヨ大統領が御宿に訪れ、御宿とメキシコの友情をさらに深めた。このとき、御宿とメキシコ南部のアカプルコは、姉妹都市協定を結び、記念碑建立70周年を迎えた際も盛大な式典が行われた。



② ドン・ロドリゴ上陸地



岩和の田尻沖で座礁したサンフランシスコ号から救助されたドン・ロドリゴと乗組員たちが日本に上陸したとされる場所が、千葉県指定史跡となっている。

岩和の人々は遭難者の救助と介護に尽くした。国境を越えた人類愛に満ちたお話は、御宿町の誇りであり、伝承という形で子供たちに受け継いでいる。

《ドン・ロドリゴ関連遺品》

③ サンフランシスコ号 櫓



1609年9月30日夜、旧岩和村の沖合いで激しい雨風により遭難したサンフランシスコ号に使われていた木材等は波により無くなってしまったと考えられていたが、唯一、櫓が御宿町に残っている。岩瀬酒造の住宅の梁にこの櫓が使用されていると伝えられている。

文化財マップ

おんじゆく

④ 千人塚供養塔

御宿町新町区にある共同墓地にある供養塔。元禄16年11月23日に発生した安房東南海底を震源とした大地震と大津波による犠牲者を供養するためや、このような災害が二度と起こらないようにと願いを込めて作られたのがこの供養塔である。

⑤ 孝女 竹永志保の碑

縦1.56m、横1.07m
 竹永志保は宝暦7年に現在の御宿町上布施新宿に生まれた。幼いころに父と死別し、21歳で結婚したが、29歳の時に夫を病気で亡くした。親族や故旧の人は再婚を勧めたが、貞女は二夫に見えずと固く拒み、一人で母親を養った。家に男手はなく、貧しかったため志保は山仕事、田仕事を行い、資金を得て、母の好きなそうめんや魚を買って与えた。雨や嵐のときも苦労して母を養い続けた志保は、多くの人から孝子節婦の模範として称えられた。志保の没後55年経って、後世に伝えようと布施村民によって碑が建てられた。

⑥ 眞常寺石塔

鎌倉で非業の死を遂げたかすきのすけひろつの上総介広常の供養塔と伝えられている。

⑦ ミヤコタナゴ

コイ科タナゴ亜科アブラボテ属の日本固有種。成魚での体長は約4～5cmで雄の方がやや大きい。通常は薄い褐色だが、産卵期の雄は金属光沢を持った紫色で腹ビレと背ビレに黒や白・朱色が表れ、鮮やかな婚姻色となる。一方雌は色の変化はほとんどないが、尾ビレまで伸びる産卵管を持つ。雌は産卵管を使い二枚貝のマツカサ貝のエラに産みつける。昭和49年ミヤコタナゴは国の天然記念物に指定され、その後平成6年には、国内希少野生動植物種に指定された。平成元年の調査において、ミヤコタナゴとマツカサ貝の生息の確認ができた。

⑧ 最明寺夫婦銀杏

幹回り3.6m、樹高23m
 最明寺境内南側に数メートル距てて双立する北の夫婦樹と南の夫婦樹。両樹は共に同年代のものにして数百年の樹齢をもち、元禄16年の大津波にも堪え、同寺の象徴的存在になっている。

⑨ 旧役場大蘇鉄

幹回り1.6m、樹高5.2m、根本幹囲1.6m
 大正13年旧町役場新築と同時に浜区個人所有の庭園にあったものを町で買収し、移転・移植したものである。以来当時の役場の象徴的存在となっていた。

⑩ 紙本著色大田喜藩陣列之図

縦28.9cm、横10.41cm
 嘉永の頃の行列図であり、大田喜藩地であった小浜海岸から岩和田海岸に至る防備の視察の様子が描かれたと考えられている。巻末には370人の陣列を描いたと記されている。当時、岩和田は大田喜藩に属しており御宿町に関連した資料として、また、大筒や火縄銃といった火器中心の幕末の藩の軍備の様子を理解する資料として大変貴重なものである。

⑪ 旧布施村絵図

縦2.97m、横2.6m
 和紙をつないで描かれている大きな地図であり、美谷、上布施、下布施が描かれている。絵図には、田・畑・山林・川・橋・堰・神社・寺院・御倉・城址・村・集落・民家・天領・小字などが細かに色分けされ、行屋・祠など記されており、昔の美谷・布施地区の様子が分かる貴重な資料となっている。

⑫ 伊勢参宮絵馬

縦77cm、横1.89m
 上布施八幡神社には、大作絵馬が11点奉納されている。中でも天保4年の伊勢大神宮参詣絵馬は門前市の賑わい、小屋の中で楽器を弾く女性や参詣者の様子を描いた風俗画で民俗資料としての価値も高い。

⑬ 十王堂縁起

元禄9年称名念佛の道場として、妙音寺より十王堂へ移転した

縁起を、「昔蓮社響誉上人忍阿随良」が記したもの。元禄16年の津波に関して触れている郷土資料としての価値も高い。

⑭ 貝海女具一式

白浜と共に房総海女として有名な御宿の海女がアワビなどを採る際に使用した道具一式である。半トウロクとパンツという潜水時の服装は御宿の海女特有のものであり、他の地域の海女には見られない。若い後継者の皆無となった現代において御宿の代名詞となった海女の歴史を知る貴重な資料となっている。

⑮ 御宿の海女の群像

故岩瀬禎之氏による、御宿の海女を被写体とした写真のネガ31点が指定されている。昭和31年に日本美術展へ出品した際には、内閣総理大臣賞を受賞した。

⑯ ハワイ出稼ぎ渡航関係書類

①旅券、②移民取扱人との契約書、③ハワイ国代理兼移住移民局特派員との契約書、④日本移民協会・本人・会社との契約書。
 明治18年より、ハワイ国での砂糖きき栽培の労働者不足に対し、日本からも3年間の契約期間として官約移民として出稼ぎ人が渡航していた。当時の渡航に関する貴重な資料である。

⑰ 千箇寺参御首題帳

甲斐・相州・武州・上総・下総・安房の国々の日蓮宗各寺院を参詣した記録である。江戸時代の庶民の信仰心がいかに深いものかを知る貴重な資料である。